



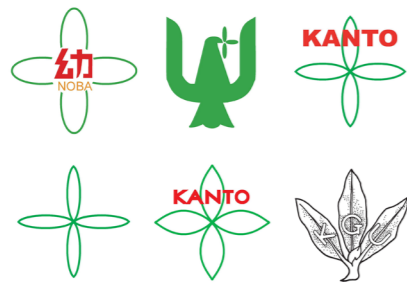
建学の精神

「校訓」

「人になれ 奉仕せよ」

中学関東学院の初代院長である坂田祐は、ウィリアム・S・クラーク博士の弟子である新渡戸稲造、内村鑑三より“Boys, be ambitious!”の精神を受け継ぎ、特に内村鑑三の門下に入って聖書を学びました。また、第一高等学校在学中、校長の新渡戸稲造からカーライルの「サーター・リサータス」(衣装哲学)の講義を聞き、「諸君は何かをしようとする前に何であらねばならぬかを考えよ。To doの前に To be の問題をまず考えよ」と教えられました。

中学関東学院の第1回入学式で、キリスト教の精神を高く説いて建学の精神とし、これを具体的に表現するために「人になれ」と力説し、さらに「人のために、社会のために、人類のために尽くすこと」と説き、「人になれ 奉仕せよ」を校訓としました。



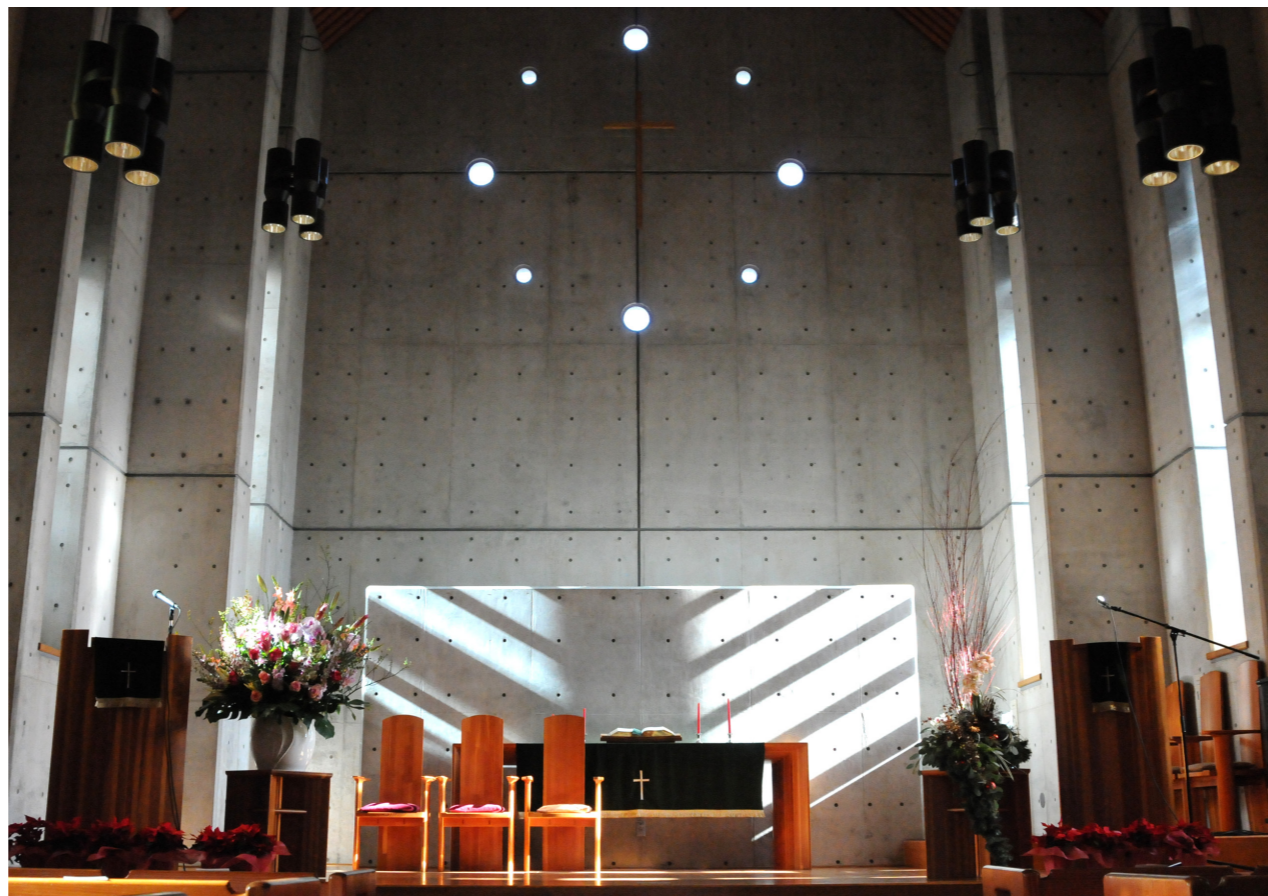
フェリス女学院 校章・マーク

神の武具である盾の中のFとSは、かつての校名(フェリス・セミナリー)の頭文字です。黄色は希望、赤は愛、白は信仰を表わしています。

学校法人 関東学院

〒236-8501 神奈川県横浜市金沢区六浦東1-50-1

TEL : 045-786-7028 FAX : 045-786-7038



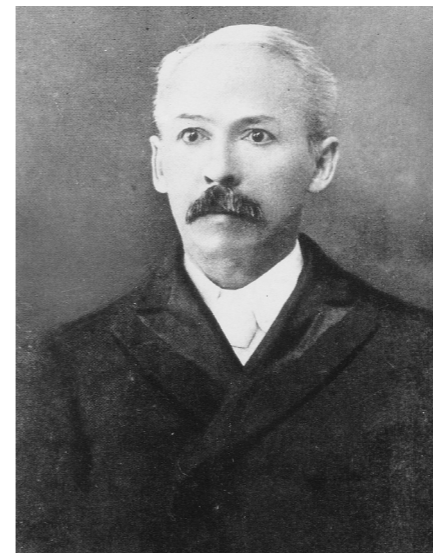
創立

関東学院は、アメリカ・バプテスト派の宣教師たちによって設立され、〈横浜バプテスト神学校〉、〈東京中院(東京学院)〉、〈中学関東学院〉という三つの源流を持っています。

第1の源流は、横浜バプテスト神学校です。1884年(明治17)10月6日、横浜の山手64番地に設立されました。この学校は、日本人のキリスト教会の働き人を養成する神学教育を行なうために設立されました。アメリカ・バプテスト派の宣教師A・A・ベンネットが設立者、校長、教授として、この学校のために貢献しました。

第2の源流は、東京中院です。1895年(明治28)9月10日、東京の築地居留地42番地と43番地に設立されました。この学校は、普通および高等教育を行なうためにアメリカ・バプテスト・ミッショナリー・ユニオンによって設立されました。初代学院長は札幌農学校第一期生の渡瀬寅次郎、教頭はアメリカ・バプテスト派の宣教師E・W・クレメント(Ernest Wilson Clement)でした。クレメントは開校の準備と設立以来、長きにわたってこの学校の設立者、学院長、教授として大きな働きをしました。1899年(明治32)、築地から牛込左内町29番地に移転し、学校名を〈東京学院〉と改称しました。

第3の源流は、中学関東学院です。1919年(大正8)1月27日、横浜の三春台に設立されました。この学校は、東京学院の中学部を発展させるために設立されました。設立者・理事長はアメリカ・バプテスト派の宣教師C・B・テンネー(Charles Buckley Tenny)、院長は坂田祐でした。テンネーは三つの源流を東ね、1927年(昭和2)に財団法人関東学院とし、現在の学校法人関東学院の礎を築きました。坂田は〈中学関東学院〉の第1回入学式において校訓「人になれ 奉仕せよ」を訓示しました。



創立者 Albert Arnold Bennett (1849~1909年)
神奈川県下の宣教、三陸津波の被災地救援など
汗を流す働きとともに、優れた著作と論文を残しました。

創立の背景と歴史

アメリカ・バプテスト外国伝道会社の宣教師 N・ブラウン(Nathan Brown)は、ジョナサン・ゴープル夫妻と共に1873年(明治6)来日しました。ブラウンは来日してすぐに着手した、日本語最初の新約聖書全訳『志無也久世無志興』を1879年(明治12)に完成させました。同年12月、ベンネットが来日し、日本人伝道者を教育するために参加者4名で聖書研究クラスを始めました。1884年(明治17)ブラウン宅で、アメリカ・バプテスト・ミッションの会議が開かれます。ベンネットから提案された神学校設立の件が承認され、横浜の山手64番地に〈横浜バプテスト神学校〉が誕生しました。校長はベンネット、教授にT・P・ポートとC・H・D・フィッシャーが就きました。

神学教育を行なう横浜バプテスト神学校に続き、1895年(明治28)普通及び高等教育を行なうための東京中院が東京・築地居留地42番と43番に設立されました。東京中院で大きな働きをしたクレメントは、1887年(明治20)に茨城県立水戸中学校の教師として来日。同校の渡瀬寅次郎校長と深い友情を築き、東京中院設立にあたって、渡瀬を学院長として招いています。1899年(明治32)牛込左内町29番地の新校舎に移転したのを機に東京学院と改称されました。英語名が“Duncan Baptist Academy”と名づけられたのは、移転に貢献したアメリカ・バプテスト・ミッショナリー・ユニオンの海外宣教担当主事S・W・ダンカン(Samuel White Duncan)に由り、校訓「職務に怠らず、心を熱くして主に事へよ」(ロマ12:11)は、ダンカンの座右の銘を受け継いだものといわれています。

1905年(明治38)東京学院は高等科を設置。1910年(明治43)横浜バプテスト神学校と福岡バプテスト神学校が合同し、日本バプテスト神学校となりました。そして、1919年(大正8)4月、日本バプテスト神学校は東京学院に合併し、東京学院神学部となりました。

中学関東学院の設立者であり理事長を務めたテンネーは、牛込左内町の校地のままでは手狭で将来発展するための余地がないと判断し、1917年(大正6)東京学院中学部をいったん閉校します。さまざまな困難を乗り越え、横浜の三春台に中学関東学院が発足。1919年(大正8)1月27日、横浜開港記念会館で設立披露の会が行なわれました。院長となった坂田祐は、東京帝国大学(当時)卒業後に母校である東京学院の教師となり、中学関東学院の設立に大きくかかわりました。1927年(昭和2)〈財団法人関東学院〉を組織し、東京学院の高等学部、神学部と中学関東学院がその組織の中に入りました。ここに現在の〈関東学院〉への展望が開かれ、この発展のために尽力したテンネーが学院長となりました。

戦時下においては、坂田祐のもと、軍部の弾圧に耐えてキリスト教学校としての関東学院を守りぬきました。1945年(昭和20)5月29日の横浜大空襲のため、関東学院は建物や設備を焼失しましたが、戦後、旧海軍航空技術廠工員養成所施設にて授業を行ないました。この施設のあった場所が、現在の横浜市金沢区の六浦校地です。その後、発展を続けながら、幼稚園から大学までを包括する関東学院となり、2009年(平成21)に創立125周年を迎えました。